

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

この授業では、学校における道徳教育の在り方を学ぶために特別の教科である道徳科の目標・内容、一般的な「道徳教育」との違い、道徳科の具体的な指導方法、教材の特性などを中心に学習する。これらの学びを通して教育現場で通用する実践的な指導に関する基礎・基本の習得を図りたい。

特に、国立教育政策研究所の研究指定校であった公立学校での実務経験をもとに、道徳と特別活動、道徳と教科や教科外の領域の学習との「関連的指導」、「地域との連携」など、小学校や中学校の教育現場で実際に実施されている具体的な実践例を通じた学習も実施したい。また、学習指導案の作成（指導観・本時の展開）も実施し、道徳指導の具体的な実践に接する機会も設定する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	道徳の意義・目的・内容と学習指導要領
第 3 回	道徳指導の歴史・沿革
第 4 回	道徳的実践活動における関連的指導と地域連携
第 5 回	低学年道徳指導の特性
第 6 回	低学年道徳指導の実践例
第 7 回	中学年道徳指導の特性
第 8 回	中学年道徳指導の実践例
第 9 回	高学年道徳指導の特性
第 10 回	高学年道徳指導の実践例
第 11 回	道徳教育の年間指導計画・全体計画
第 12 回	道徳科学習指導案の基本的考え方
第 13 回	道徳科の学習指導案の作成（学校現場でつくられている「指導観」の作成法）
第 14 回	道徳科の学習指導案の作成（学校現場で使われている「本時の展開」の作成法）
第 15 回	学習のまとめ
第 16 回	筆記試験

到達目標

1. 道徳科の目的、意義、内容、沿革などに関する基本的な考え方を理解し説明している（知識・技能）。
2. 小・中学校での現状や課題をふまえながら、小論文や口頭で表現している（思考・判断・表現）。
3. 道徳指導に関するグループ討議や発表に進んで参加しようとする（主体的学習態度）。

履修上の注意

単位修得のためには、最低でも 10 回の完全な出席（無遅刻・無早退であること）が不可欠となる。また、授業では、グループ協議・発表等を重視する。筆記試験（第 16 回目）は、「小論文」形式で出題する。

予習・復習

授業内容の深い理解、予習・復習のため授業時間外に「課題」を作成し提出する。

評価方法

学期末試験 70%、授業中に課す簡単な課題への回答 10%、レポート 10%、受講態度 10%

テキスト

テキストは使用せず、毎回の講義で必要な資料を配布する。次の書籍も活用してほしい。
文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編』、出版社廣済堂あかつき